

考古学研究室報告

第33集

- I 用見崎遺跡Ⅳ
- II 西原 F 遺跡 2
- III 肥後における古墳の調査 2
研究室の足跡'97

1 9 9 7

熊本大学文学部考古学研究室

序 文

教養部解体に伴う文学部改組により考古学講座は、平成9年4月1日をもって従来の国史学講座の近世以前の担当講座とともに文学部歴史学科歴史資料学講座に改編され、考古学分野を担うことになった。学生の教育コースは従前のままであり、この改組によっても『考古学研究室』は実質的には何の変わりは来していない。強いて言えば研究室予算が大幅に増加したことであり、20数年前の状況から思うと感無量である。

これを機にこれまでの研究室実習報告の体裁を改めて、名実ともに年報にするために、今年度の研究室の考古学的活動の成果をできるだけ取り込むこととし、7～8月に実施した奄美大島笠利町用見崎遺跡、阿蘇郡西原村F遺跡の報告に併せて、白川下流域の後期古墳石室実測図も掲載することにした。石室の実測は十数年前から少しずつおこなっており、貴重な資料となることから、西住欣一郎、本山千絵両氏による伝佐山古墳と弁財天古墳の石室実測図も「肥後における古墳の調査2」として収録した。どの古墳も熊本県下における古墳研究にとっては重要な資料であり、今後もこうした地道な活動を公にするよう努めていきたい。

従来のように実習調査の報告書を作成するだけでも大変な状況に追い込まれたのに、さらに報告する対象と分量が増えることで、学生諸君には過重な負担がかかるおそれもあるが、研究成果を速やかに公表することも、調査を有形無形に援助を与えてくださった関係者に対する義務であり、今後さらに心を引き締めて取り組んで欲しい。

今年度の報告は「用見崎遺跡」は若杉あずささんがまとめ、「西原F遺跡」は藤本圭司君が取り組んだ。また「肥後における古墳の調査2」は藏富士寛氏がまとめた。

用見崎遺跡の報告において発掘調査に加わって貴重なサゼスションを与えられただけでなく、論文をお寄せいただいた三重大学の目崎茂和、札幌大学高宮広土、早稲田大学樋泉岳二、千葉県立中央博物館黒住耐二、岩石鑑定にあたられた松本幡郎各先生に深く謝意を表します。

1998年1月

甲元 眞之

I 用見崎遺跡IV

例 言

- 本編は熊本大学文学部考古学研究室による鹿児島県大島郡笠利町用字見崎所在の用見崎遺跡の発掘調査報告である。
- 発掘は実習調査として研究室が起案し、笠利町教育委員会の協力を得て実施された。
- 調査期間中は長島商事かごしま熱帯植物園並びに同笠利分園、笠利町役場、中山清美氏をはじめとして笠利町歴史民俗資料館及び用集落の皆様にも全面的な協力をいただいた。
- 調査は1997年7月11日から23日までの13日間実施した。
- 脊椎動物、軟体動物、植物遺存体の鑑定、分析については、順に樋泉岳二、黒住耐二、高宮広土の各先生にお願いし、遺跡の立地については目崎茂和先生に御教授いただいた。
- 石材の鑑定は元熊本大学理学部教授の松本幡郎氏にお願いした。
- 本書の編集は若杉あずさが行い、執筆分担については執筆者名を各文末に記した。
- 調査参加者は以下の通りである。
 - 甲元眞之 木下尚子 藏富士寛 (以上教官)
 - 美浦雄二 若杉あずさ (以上大学院1年)
 - 上山敏弘 佐野朝子 西山由美子 藤江望 (以上学部4年)
 - 江島賢一 小倉卓 小路岳彦 谷直子 辻村美代子 林季美子 福岡理恵 藤本圭司 藤原由博 (以上学部3年)
 - 麻生貴亮 石川まどか 緒方智子 鍛冶真理子 亀井菜津子 新里亮人 高城欣典 富永明子 中川毅人 馬場達也 古野京子 峯崎麻帆 村上浩明 山口大介 (以上学部2年生)

本文目次

一 調査の概要	1
1. 調査の目的と経過	1
2. 層序	2
3. 遺構の検出	7
4. 遺物出土状況	8
二 出土遺物	12
1. 土器	12
2. 石器	17
3. 貝製品	18
4. 自然遺物	21
5. ヤコウガイ	27
三 まとめ	31
特論	
1. 用見崎遺跡出土の脊椎動物遺体（第二報）	34
2. 1997年の用見崎遺跡調査で得られた貝類遺存体（予報）	38
3. 用見崎（奄美大島大島郡笠利町）における フローテーション法の導入とその成果について	46
4. 用見崎遺跡の地理・自然・環境	49

挿図目次

第1図 遺跡周辺地勢図	第8図 出土貝製品実測図（1）
第2図 遺跡周辺地形測量図	第9図 出土貝製品実測図（2）
第3図 土層断面図	第10図 東側調査区自然遺物出土状況
第4図 遺物出土状況	第11図 ヤコウガイ各部名称
第5図 出土土器実測図（1）	第12図 ヤコウガイ貝殻破損類型
第6図 出土土器実測図（2）	第13図 ヤコウガイ製品利用部位
第7図 出土石器実測図	

表 目 次

- 第1表 出土土器観察表
第2表 東側調査区グループ別にみた上位3位の貝種比較
第3表 東側調査グループ別貝類一覧表
第4表 B-3区層位別貝種一覧表
第5表 B-3区層位別にみた貝の出土数(破片)の比較
第6表 B-3区層位別にみた上位3位の貝種比較
第7表 貝種別破損状況
第8表 ヤコウガイ貝殻大きさ別個体数分布
第9表 ヤコウガイ貝殻破損類型別個体数
第10表 破損類型別にみたヤコウガイ貝殻の大きさの割合
第11表 ヤコウガイ製品利用部位別個体数
第12表 ヤコウガイ蓋大きさ別個体数分布

図版目次

- | | | | |
|-----|------------------------|-----|-------------------|
| 図版1 | 上 用見崎遺跡遠景(北側より) | 図版5 | 上 土器(1) |
| | 中 調査前の遺跡近景(西側より) | | 中 土器(2) |
| | 下 東西トレンチ南壁セクション | | 下 土器(3) |
| 図版2 | 上 南北トレンチ東壁セクション | 図版6 | 上 土器(4) |
| | 中 東側調査区(南側より) | | 中 土器(5) |
| | 下 B-0区柱穴検出状況(北側より) | | 下 石器 |
| 図版3 | 上 A-0・1'区遺物出土状況(北西側より) | 図版7 | 上 貝製品(1) |
| | 中 B-3区遺物出土状況(西側より) | | 中 貝製品(2) |
| | 下 A-1区遺物出土状況(北側より) | | 下 貝製品(3) |
| 図版4 | 上 B-0・1'区遺物出土状況(東側より) | 図版8 | 上 自然遺物(1) |
| | 中 調査終了時の東側調査区(西側より) | | 中 自然遺物(2) |
| | 下 現地説明会 | | 下 ヤコウガイ貝殻破損
状況 |